

社会科学習指導本時案

授業者 平井 千恵

日時：平成30年10月27日（土）第2校時（10：25～11：10）

本実践の主張点	時代を1文にまとめる活動を行うことで、それまでの事象や人物の働きを再度見直し、単元のねらいについて探究することができるであろう。
---------	--

対象：第6学年C組 29人

場所：6年C組教室

1. 本時について

本時は、これまでの学習で得た知識を活用し、自分の考えの根拠を示しながら表現する時間である。本時までに児童は、大日本帝国憲法の発布や国会の設立、日清・日露戦争、産業の発達と当時の人々の暮らしについて人物の業績や気持ちを考えながら学習してきた。本時では、それらの知識を活用しながら、世界に誇れる日本人を新紙幣に起用するという目的で討論を行うことで、日本の国際的地位の向上には政治・軍事・産業の要素があったことを押さえ、それに携わった人物の業績の背景にある日本の実状のプラス面とマイナス面に気付き、明治・大正時代に対する考えをもたせたい。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

本時における探究的な学びは、討論後の時代背景を考えながら明治・大正時代について、具体を入れながら一文でまとめる過程にある。それまで各時間の学習で一面的に時代内容を捉えていた児童は、再度、どんな事象があったのか、どんな人物がどんな行動をしたのかということについて省察することになる。そうすることで、知識を再構築して時代を捉えることができるようになる。また、これからの日本の在り方についても考える時間となるようにしたい。

3. 探究的な学びを支える授業のしかけ

歴史学習では弥生時代の卑弥呼を皮切りに、近代にかけて徐々に歴史上の人物の数が増える。その人物について知ることが楽しくなる児童と、人物が多くなりすぎて歴史学習が嫌いになる児童とに分かれている。（しかし、昭和以降になると人物はほぼ出ていない。）本時では、意欲的に取り組めるよう、単元導入時に「オリンピックの記念紙幣を発行するとしたら誰を起用するか」という問いを設定し、歴史学習を進めたい。また、本時では、時代を1文にまとめさせることで、具体的事実をもとに抽象的に時代背景を捉えさせ、理解を深めさせたい。また、これからの国際社会を生きる中で必要な力についても考えさせたい。

4. 育みたい資質・能力

探究力	省察性
<ul style="list-style-type: none"> 事象について多面的に考える力 (思考力・判断力・表現力) 	<ul style="list-style-type: none"> 学習全体を通して考える力 (思考力・判断力・表現力を支える省察性)

5. 本時の目標

明治・大正期において、我が国の国際的地位が向上した時代背景について自分の考えをもつことができる。

6. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 「新紙幣、誰を起用するか」意見を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 陸奥宗光 外国とも対等に交渉してくれたから。 ○ 山田青年 差別のない社会を願う人物だから。 ○ 平塚雷鳥 女性も力があることを伝えてくれるから ○ 田中正造 公害の被害を受けた人々のために半生をささげたから。 <p>2. これらの人物が活躍した時代とは、どんな時代だといえるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戦争や公害日本などで多くの人が苦しんだ時代といえる。 ○戦争に勝ったり、産業が発達したりして日本の国力が充実し、世界にすごいと思わせた時代といえる。 ○憲法や国会など外国の文化を取り入れて政治が大きく変わった時代といえる。 <p>3. まとめ・振り返り (国力の充実をめざした日本について話し合ったことから考えたことを書く。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意見をもてるよう、事前に日本の近代化、戦争、産業の発達など各分野からプレゼンする人物を決定しておく。 板書は各分野に分けることでつながりを捉えやすくする。 条約改正までの約 50 年間で、多くの人々の業績があったことを確認する。 話型を示し、1文でまとめることで、社会的事象の意味や働き、特色などについて考えさせる。 「明治・大正時代は、○○や○○というような・・・時代といえる。」 プラス面の意見とマイナス面の意見を可視化し、両面があることに気付かせる。 現在はすべて解決しているのか問い、社会に目を向けさせる。(次時の予告) 思 明治・大正期の、わが国の国際的地位が向上した時代背景について考えたことを表現している。 (発言・ノート)